

# 住友ゴム工業が本社・工場約80部署で RPAを活用した業務改革を実施 定型業務の自動化により削減時間は 年間約35,000時間にのぼる



住友ゴム工業株式会社  
SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.



## 組織の概要

1909年(明治42年)創業、独自のゴム技術を生かし、タイヤ事業からスポーツ事業、産業品事業まで多岐にわたる事業を展開する住友ゴム工業株式会社。グローバルに広がる開発・生産・販売体制を基に、2025年までの中期計画では「高機能商品の開発・増販」「新たな価値の創出」「ESG経営の推進」3つのバリュードライバーに注力しています。

## 課題 業務改革・働き方改革を進める中で「定型業務の省力化」が課題に

同社は、かねてより企画・分析など本来業務に注力できる環境を目指した業務改革を検討していました。同社 RPA 推進室 舛田和也氏は、「従業員が日常的な定型業務に忙殺され、なかなか業務改革がうまく進まない課題があった」と話します。

そこで定型業務の自動化にRPA導入が検討されました。舛田氏によると「2018年末に1~2の業務で試して成功したため、2019年初頭から本格検討を開始した」ということです。

まずは各部署の課題を洗い出しいくつかの業務を対象にテスト導入を行い、効果を検証するとともに、RPA専門の推進部署として2019年4月にはRPA推進室が発足しました。

## ソリューション 開発の操作性や開発後の管理面の使い勝手が決め手

RPAツールの選定は、2018年第3四半期ごろから開始されました。同社 RPA 推進室 岸保安里沙氏は、「複数の候補から、当初はユーザー開発よりもIT部門による開発に重点が置かれていたため、機能面から最終的に2製品に絞った」と説明します。

同社のシステム子会社の検証結果とその評価を参考にAutomation Anywhereの選定を決めました。舛田氏は「ロボット管理機能では、サーバーにアップロードされたロボットなどのファイルを管理するリポジトリ機能など、管理機能が使いやすいと感じた」と「RPAの管理面の優位性」を決め手に挙げました。

また、ロボット開発機能も、条件分岐などの処理の追加など開発の過程が視覚的に分かりやすく表示されるため「作ったり修正したりするのがやりやすい」というのも決め手となったポイントです。

こうして、「Automation Anywhere Enterprise」は、2018年第4四半期よりパイロット導入されることとなりました。具体的には、国内外のグループ会社の業績を集計、連結して表にするなどの経営企画部の定型作業の自動化に取り組んだということです。

その結果、「RPA化以前は月間で約20時間要していた作業が約30分に短縮され、経営会議直前には丸一日以上を要する作業が大幅に軽減された」と岸保氏は話します。

## メリット

226

稼働中のロボット数  
(2021年10月時点、動作検証中も含む)

年間約 35,000 時間

削減時間

本社と工場

約180部署に対し約80部署

導入済みの部署の割合

## 自動化されたプロセス

主に以下のような業務システムからExcelへの転記作業

- ・経営企画部における業績集計作業
- ・品質保証部における各種試験レポート作成
- ・人事総務部における出社率算出
- ・工場製造部門における日次生産状況レポート作成

## 業界

製造

「サーバーにアップロードされたロボットなどのファイルを管理するリポジトリ機能など、ロボット管理機能の使いやすさが決め手となりました」



住友ゴム工業株式会社

RPA推進室

舛田 和也 氏

## 詳細 「感度の高い」社内ユーザーを中心に徐々にユーザー開発を拡大

2020年からは本格的にユーザー開発のトライアルを開始しました。コロナ禍による大幅な計画の見直しを経て2020年後半からは各工場に拡大し、2021年も継続しています。

岸保氏は「当初、様々な部門でRPA化に適した業務を棚卸したが、IT部門が開発する体制では、開発側の工数もあるため、削減時間が相当ないと投資対効果がそれほど見込めないことがわかった」と振り返ります。

しかし、工場などの経理部門におけるExcelなどへの転記を行う“細々とした”定型業務も、積み重なれば大きな効果につながるため、何とか自動化する方法がないかを検討していたとき、「経理や人事総務、品質保証部門、工場などいくつかの部門で、感度の高い社内ユーザーが何人か手を挙げてくれた」ということです。

そこで自発的に手を挙げてくれた社内ユーザーにAutomation Anywhereを使用してもらい、2021年に入って徐々にユーザー開発を拡大していきました。

## 結果 本社と工場約80部署でRPAを導入、年間約35,000時間の削減実績

こうした取り組みの結果、2021年10月時点で稼働中のロボットは、動作検証中を含めて226、本社と工場約180部署に対し約80部署で導入され、削減時間は年間で約35,000時間という実績となりました。

また、同社が行う稼働状況調査によると、定性効果として最も多かったのが「業務の正確性が高まった」「新しい仕事に取り組めるようになった」「定型業務のミスのプレッシャーから解放され気持ち楽になった」などの回答でした。

同推進室の廣田慎一氏によると、これまで出社前提の定型業務が自動化されたおかげで「在宅でも可能になり、コロナ禍での働き方に対応することが可能になった」ということです。これは、RPA化を機に業務整理を行った結果、「それまで紙ベースで回覧していた業務がExcel化されるなどの、出社を前提にしなくてよい環境が作られていたことが背景にある」と廣田氏は話します。

## 今後の展望 全社展開をさらに進め、社内開発者への教育にも注力していく

今後の展望について舛田氏は「国内だけでもグループ会社が数多くあるため、特に販売会社における業務課題の解決に役立てていきたい」と話します。特にユーザー部門での開発を進めていくために「動画をはじめとしたコンテンツの発信、また、すでにRPAの教育、研修を受講したものの休眠状態にあるユーザー開発者に対する再研修の促進などのテーマに取り組んでいきたい」と岸保氏は述べました。

廣田氏は、さらなる業務改革に向け、紙の帳票類のデータを自動で抽出可能な「Automation Anywhere IQ Bot」も、本格導入に向けた検証に取り組んでいる段階とのことで、オートメーション・エニウェアに対して、今後も業務改革のパートナーとして支援を期待したいと話しました。

「これまで出社前提の定型業務が、RPA化により在宅でも可能になり、柔軟な働き方に対応することが可能になりました」



— 住友ゴム工業株式会社  
RPA推進室  
廣田 慎一 氏

「全社展開にはユーザー部門での開発体制確立が重要です。研修受講済みのユーザー開発者への再教育の促進や、RPAの教育コンテンツの発信など、様々なテーマに取り組んでいきたいです」




— 住友ゴム工業株式会社  
RPA推進室  
岸保 安里沙 氏

## Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

**デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。**

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP  [www.facebook.com/AutomationAnywhJP](https://www.facebook.com/AutomationAnywhJP)  [contact\\_japan@automationanywhere.com](mailto:contact_japan@automationanywhere.com)

Copyright © 2021 Automation Anywhere, Inc. Automation Anywhere, A のロゴ, Automation 360, AARI, A-People, IQ Bot, Bot Insight は、米国およびその他の国における Automation Anywhere Inc. の商標・サービスマーク、または登録商標・サービスマークです。本書に記載されるその他の製品および会社名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

2021年12月バージョン1

